

を報告している。北海道の分布は“Karikatsu”（狩勝のこたか？）で採集された記録があるものの（Sasaji, 1971），分布疑義のようである（松本ほか，2012）。

本報告では，フタスジヒメテントウが島根県隠岐の島町のナナマカドから採集された状況を報告する。島根県初記録ならびに隠岐諸島初記録となる。

4 exs., 島根県隠岐の島町鷲ヶ峰，21. V. 2019，吉富博之採集，愛媛大学ミュージアム・ホシザキグリーン財団保管。

なお，ナナマカドの根際にケアリ属の1種 *Lasius* sp. が蟻道を形成しており，その周辺で日中に採集した。蟻道を崩すと中からはコナカイガラムシ科のクリシコックス属の一種 *Crisicoccus* sp. がみつかった。

末筆ながら，カイガラムシを同定してくださった田中宏卓博士にお礼申し上げる。本報告はホシザキグリーン財団の共同研究の一環で行われた。

引用文献

- Jung, S. W., M. J. Lee, & Y.-H. Kim, 2019. New record of ladybird beetle (Coleoptera: Coccinellidae) in Korea, with a checklist of the Palaearctic species of *Horniolus* Weise. *Journal of Asia-Pacific Biodiversity*, early view.
- 城戸克弥，2014. 福岡県で採集した甲虫類 (19). *KORASANA*, (82) : 35–38, pls. 1–3.
- 松本英明・堀 繁久・佐々木恵一・柏崎 昭，2012. 北海道のテントウムシ科. *jezoensis*, (38) : 39–76.
- 中野文尊・阪本優介，2018. クロジュウニホシテントウおよびフタスジヒメテントウの生態に関する知見. *月刊むし*, (571) : 42–44.
- Sasaji, H., 1971. *Coccinellidae* (Insecta: Coleoptera). *Fauna Japonica*. Tokyo: Academic Press of Japan. 345 pp. + 16 pls.
- 山内 智，1996. 青森県のテントウムシ科. *青森自然誌研究*, (1) : 17–23.

(吉富博之 愛媛大学農学部昆虫学研究室)

【短報】水溜りの水面で得られた甲虫 ―水の面の何が甲虫を引き寄せた一例―

筆者は以前，ゲンゴロウ科の甲虫が車のボンネットや林道の白い石に飛び込んだ事例を報告したことがある（西田，2000）。この現象は水生甲虫が日中に飛翔しているときに光るボンネットや大きな白い石を水面と間違った行動ではないかと考えている。なお，ゲンゴロウのこのような行動は，筆者だけがたまたま目撃できたわけではない。海外の文献でも「飛んでいるゲンゴロウは水面と間違えて車や温室に突っ込んでしまう」と述べられていることを付け加えておく（Preston-Mafham, 2004）。

数年前，筆者は全く逆の事例を観察した。九州山

地で4畳半程度の水溜りの水面に多くの陸生甲虫が浮いているのを観察したのである。原因不明ながら，筆者長年の甲虫採集経験の中でも稀有の観察であり，日中に何かに引き寄せられて入水したのではないかと思われたので，本稿にて書き留めておきたい。

2017年5月17日午後4時半ごろに熊本県八代市泉町の白鳥山で採集した帰りに，標高約1,200 mの車道わきにある傾斜地の水溜り（図1と2）にゴミムシなどの水辺の甲虫を求めて立ち寄った。水溜りは転石の多い急斜面に流れる水が道路にせき止められてできたもので，面積はおおよそ10 m²，見た目の水深は30～40 cmと深くはなく，一角から流れ出ているためか，全体を回るゆっくりとした楕円を描くような水流があった。そして，水辺で虫を探し出して間もなく水中に落ちた細い枯れ枝にマグソコガネの一種がしがみついているのを見つけた。付いていたシカの糞とともに転がってきたのかとさして気に留めなかったが，続けざまに見つけたのでなんだろう？と思いながら水辺から水面に目線を変えたところ，他にも虫が浮いていることに気が付いた。最終的に30分程度の時間で15科34種65頭の甲虫目



図1. 水溜りの遠景.



図2. 水溜りの近景.



図3. 得られた甲虫（コメツキムシ科，ジョウカイボン科を除く）。

（文章末のリスト参照）を拾い上げることができた。拾い上げた甲虫はクロニセリゴカミキリの触角が途中から切れているくらいで目立った損傷はほとんどなく（図3），展足時に関節が外れるような腐敗もなかったことから，入水してから時間は長くはないように思えた。また，水溜りの一角から流入量と同等の水が流れ出ていたことから，そこから流出した個体もいるだろうとも考えられた。

そこで，筆者はもっと多くの甲虫が入り込んでいたのではないかと思い，しばらく観察を続けた。ハチの一種が水面に浮かぶ虫を引き上げようと盛んにアタックしているところが観察されたものの，筆者の目の前で新たに飛び込む虫を観察することはできなかった。水溜りの上流は転石の多い急斜面で水量も多いわけではないので，上流からこれだけの虫が運ばれることは考え難く，また飛翔している虫が偶然に落下したにしては数が多いと考えた。なお，この日は午前中に1,400 m付近の開けた車道脇と1,500 m付近の林が開けた登山道脇に白い大きな皿に水を張ったパントラップを4個仕掛けていた。午後4時ころに確認した時には，このトラップには甲虫はまったく入っていないかった。そこで，水溜りが周辺では一番低いところに位置することから，今回この水溜りで得られた甲虫は水溜りにある何らかの要因に惹かれて飛び込んだものと思われた。

さて，今回得られた甲虫はほぼ昼行性の種であり，水棲でもなく，しかも多くの科にわたって訪花する性質のない種群も含まれることから，甲虫類は日中に活動する場合も視覚的に何かに引き寄せられる性質を一般的に備えているのではないかと思われた。流入する水や風などによる波紋か木漏れ日のちらつきか，水面に映る木々や空と黒い水底が広い空間を誤認させいざなうのか興味は尽きないが，実証したわけではないので想像に過ぎない。無論，たまたま吹いた強風にあおられて，多くの甲虫が偶然水

面に落ちただけとの可能性は否定できない。そこで，似たような現場を目撃された全国の会員と情報を共有いたしたく，今回報告させていただいた次第である。

リストを作成するにあたり難解な種群の同定をしていただいた久留米市の今坂正一氏（ジョウカイボン科，ヒゲナガウスバハムシ），佐伯市の堤内雄二氏（コメツキムシ科）に深く感謝申し上げる。

水溜りで得られた甲虫のリスト

1. ヒメタマキノコムシの一種 *Pseudocolenis* sp. 1 ex.
2. セスジハネカクシの一種 *Anotylus* sp. 1 ex.
3. ヒメキノコハネカクシの一種 *Sepedophilus* sp. 1 ex.
4. ヒゲブトハネカクシの一種 *Aleochoarinae* sp.1 1 ex.
5. ヒゲブトハネカクシの一種 *Aleochoarinae* sp.2 1 ex.
6. イガクロツヤマグソコガネ *Aphodius igai* Nakane 6 exs.
7. マルハナノミの一種 *Scirtidae* sp. 1 ex.
8. クロツヤヒラタコメツキ *Calambus japonicus* (Fleutiaux) 1 ♂
9. コガタシモフリコメツキ *Actenicerus aerosus aerosus* (Lewis) 1 ♂
10. ヒメクロコメツキ *Ampedus carbunculus* (Lewis) 1 ♂
11. シイバフトヒラタコメツキ *Acteniceromorphus mukunokii* Kishii 1 ♂
12. ヘリムネマメコメツキ *Yukoana carinicollis* (Lewis) 5 ♂
13. カクムネベニボタル *Ponyalis quadricollis* (Kiesenwetter) 1 ♂
14. オオニンフジョウカイ *Asiopodabrus kirishima* Takahashi 1 ♀
15. モロツカニンフジョウカイ *Asiopodabrus morotsukaensis* Takahashi 3 ♀
16. イシハラジョウカイ *Lycocerus ishiharai* (Ishida) 3 ♀
17. フチヘリジョウカイ *Lycocerus maculielitris* (Ishida) 3 ♂
18. ホソニセヒメジョウカイ *Lycocerus okuyugawaranus okuyugawaranus* (Takahashi) 1 ♂ 1 ♀
19. ズグロキスイモドキ *Byturus atricollis* Reitter 1 ♀
20. クビナガムシ *Cephaloon pallens* (Motschulsky) 1 ex.
21. マダラカミキリモドキ *Oedemera venosa* (Lewis) 1 ex.
22. キアシカミキリモドキ *Oedemera manicata* Lewis 2 ♂
23. キバネニセハムシハナカミキリ *Lemula decipiens* Bates 1 ex.
24. ピックニセハムシハナカミキリ *Lemula rufithorax* Pic 1 ex.
25. ヒナルリハナカミキリ *Dinoptera minuta* (Gebler) 3 exs.
26. フタオビヒメハナカミキリ *Pidonia puziloi*

- (Solsky) 2 exs.
27. クロニセリゴカミキロ *Eumecocera unicolor* (Kano) 1 ex.
28. ヒゲナガウスバハムシ *Stenoluperus nipponensis* (Laboissière) 1 ex.
29. ツブノミハムシ *Aphthona perminuta* Baly 6 exs.
30. ルリマルノミハムシ *Nonarthra cyanea* Baly 2 exs.
31. カシルリチョッキリ *Neocoenorrhinus assimilis* (Roelofs) 1 ex.
32. ノミゾウムシの一種 *Orchestes* sp. 5 exs.
33. キクイムシの一種 *Xyleborini* sp. 2 exs.
34. キクイムシの一種 *Scolytoplatypus* sp. 1 ♀

引用文献

- 西田光康, 2000. 晴れた日に降ってきた? ゲンゴロウ類. 北九州の昆虫, 47 (1): 67.
- Preston-Mafham, K., 2004. World of Animals. Vol. 25. Insects and Other Invertebrates. 128 pp. Grolier, London.

(西田光康 843-0023 武雄市武雄町昭和 280-201)

【短報】渡嘉敷島から発見されたリュウキュウシコメツキ

渡嘉敷島は、沖縄島の西、慶良間列島に所属する小島で、コメツキムシ科甲虫は、これまでに、ヨナグニチビコメツキ *Babadrasterius urabensis* Ôhira, 1994, トカシキチビヒラタコメツキ *Heteroderes amplicollis* (Gyllenhal, 1817), イハヒメサビキコリ *Agrypnus (Colaulon) miyamotoi ihai* (Ôhira, 1967), ヤエヤマサビコメツキ *Lacon (Alaotypus) yayeyamanus*



Fig. 1. *Melanotus loochooensis* Miwa from Tokashiki-jima Is., Ryukyu Isls., ♂.

(Miwa, 1934), サカグチオオヒラタコメツキ *Anthracalaus sakaguchii* (Miwa, 1929), ウバタマコメツキ *Cryptalaus berus* (Candèze, 1865), フタモンウバタマコメツキ *Cryptalaus larvatus pini* (Lewis, 1894), オキナワオオハナコメツキ *Platynychus loochooensis* (Kishii, 1979), タムラハナコメツキ *Displatynychus tamurai* (Kishii, 1974), オキナワカンシャクシコメツキ *Melanotus okinawensis* Ôhira, 1982, タカハシクシコメツキ *Melanotus takahashii*

Kishii, 1974, サメハダキコメツキ *Xanthopenthes granulipennis* (Miwa, 1934), クロヘリツヤコメツキ *Ludioschema vittiger fuscomarginatum* (Lewis, 1896), オキナワクチプトコメツキ *Parasilesis okinawensis okinawensis* (Miwa, 1928) の 14 種が知られている (Kishii, 1999; 太平, 1999; 佐々木ほか, 2002).

筆者らは、これまで渡嘉敷島から記録のなかったリュウキュウシコメツキ *Melanotus loochooensis* Miwa, 1929 を検することができたので、ここに報告しておく。

7 ♂♂ (Fig. 1), 沖縄県渡嘉敷島, 6. VI. 2019, 松村雅史採集, 鈴木互保管。

リュウキュウシコメツキは、Okinawashima [沖縄島] から記載された種であるが、現在ではトカラ列島中之島から与那国島にかけての琉球列島と伊豆諸島の八丈島に生息することが知られている。一時は、本種の正体がわからず、トカラ列島や奄美大島産のものがタンチャメクシコメツキ *M. tanchamelis* Ôhira, 1967 として記載されることもあった。Kishii (1974) は、徳之島産のものをタンチャメクシコメツキの亜種 *M. t. tamurai* としたが、後に、トカラ、奄美大島、徳之島のタンチャメクシコメツキは、リュウキュウシコメツキのシノニムとして処理する一方で、石垣島、西表島、与那国島のものは、リュウキュウシコメツキの別亜種にすべきだとしている (Kishii, 1999)。

トカラ産と八重山産の個体を比較してみると、前胸腹板突起の形状や雄交尾器の形状に大きな違いが認められるが、間を埋める島々の個体を調べてみると雄交尾器の形状には一定の傾向にあるようにも見える。この辺のところは、各地の標本をそろえた上で分析したい。

引用文献

- Kishii, T., 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, (42): 1-144.
- 太平仁夫, 1999. 渡嘉敷島・座間味島のコメツキムシ採集記. 北九州の昆虫, 46: 121-123, pl. 19.
- 佐々木健志・木村正明・河村 太, 2002. Coleoptera コウチュウ目(鞘翅目). 屋富昌子, 金城政勝, 林 正美, 小濱継雄, 佐々木健志, 木村正明, 河村 太編, 増補改訂琉球列島産昆虫目録: 157-284. 沖縄生物学会, 沖縄・西原.
- 鈴木 互・乙部 宏, 2013. 久米島から採集された興味あるコメツキムシについて. さやばねニューシリーズ, (10): 5-12.

(鈴木 互 156-0053 川崎市中原区木月大町
法政大学第二高等学校生物科)
(松村雅史 901-1303 島尻郡与那原町与那原 3219-9)